



千葉県勤労者山岳連盟

2011年 1月号

ちばニュース



Chiba Workers' Alpine Federation

■ 千葉県連と会員をつなぐ……CWF / Newsletter ■

2011年1月10日発行(毎月1回発行) 通巻213号

目次

私の一名山

(谷川岳／小林光子／山の会らんたん) P. 3

年頭挨拶

岡田理事長・広木会長 P. 4

理事会報告 P. 5

募集

救急法机上講習会 P. 6

行事報告

ロング・ウィークデイ合同ハイキング

(ハイキング委員長 桑原年一) P. 7

ロング紅葉ハイキングが雨でパー

(実行委員長 中原紀代治) P. 8

第15回全国登山者自然保護集会参加報告 P. 9

全国連盟が提案した個人会員制制度について P. 10

ふれあいハイキング実行委員会報告 P. 11

リレーエッセイ

「登山は私のストレス解消」

(松戸山の会／佐川美枝子／ハイキング委員) P. 13

委員会・救助隊・部会報告

教育遭難対策委員会 P. 14

救助隊 P. 15

女性員会 P. 15

ちばニュース編集部会 P. 16

海外委員会 P. 16

今月の登山時報から P. 17

事務局便り/ 編集後記 P. 18

県連カレンダー

表紙コメント

撮影日：平成21年8月23日

撮影場所：涸沢岳からの下山途中、奥穂高・ジャンダルムを望む。

コメント：平成21年の集中登山は穂高岳だった。

5コースに別れて総勢23名が参加。

23日には北穂高岳、ジャンダルム、唐沢からの3パーティーが穂高岳山荘で感激の集結。幸い天候に恵まれ、日本一の山岳景観を堪能できた。

山の会らんたん 豊田幸長

私の一名山



谷川岳 (1977M)

山の会 らんたん

小林 みつこ

私の一名山は何と言っても谷川岳です。山登りを始めるきっかけになってくれた山です。理由は約20年前、新聞に「保育園児谷川岳を登る」という記事を読み、子供が登れるのだからたいした事はないだろうと家族で行こうという話になり、夫、長男、そして私の3人で出かけました。二男は部活で参加できなかったが。何の下調べもせず家を朝7時頃車で出発。ロープウェイのある土合口に10時30分着。巖剛新道を登る予定が地図を持たない為、登山口がわからず一ノ倉沢のあたりまで行ってしまふ。おかしいと思い人に聞き、登山口はもっと手前にあると言われ、戻って登山口発見。すでに11時を過ぎていた。山頂に着けば小屋に泊まれると思いがんばって登りました。山頂に近くなった時、朽ち果ててつぶれてしまった小屋を見て、あぜんとする。とりあえず山頂に立つ。風が強くガスが景色の半分をかくしていた。登れたよろこびで一杯だったが、下らないといけない。急いで天神尾根に行く。ロープウェイがあるから天神平まで行けば大丈夫だろうと。スピーカーからロープウェイの終了時間の知らせが17時と聞こえてくる。あせって道をまちがえ行ったり来たり、天神平に着いたのは17時10分前、無事セーフ。足はガクガク、体はつかれきっていた。地元の人に教えてもらった温泉のユテルメ谷川に入ったら、気持ちが良かったのは言うまでもありませんでした。

その後、山の会らんたんに入り、谷川岳は8回位登っていますが、そのつどコースは違うので、楽しさも色々です。5月上旬、ロープウェイ乗り場近くの道路のわきに、イワカガミの大群落が一段と目を引いていました。7月下旬、谷川岳～朝日岳～白毛門～土合の馬蹄形のコースでは、花のくわしい友人が名前をおしえてくれるが、すぐに忘れてしまふ。約120種類の花があったと言う。ダイナミックな山容、そして、花の多さも豊富で私にとって一名山というより一番の山です。



2011年山登りの楽しみ方

千葉県連盟 理事長 岡田正勝

新年明けましておめでとうございます。

ある雑誌に掲載されていてことを思い出して書きました。山登りには登りたい山と登れる山があると思います。

前者は憧れの山、後者は体力があり自身のある山です。

山登りには楽しみ方が3回あります、「計画を立てる」・「行動を起こす」・「記録を残す」。

「計画を立てる」とは、自分が登りたい山をガイドブック等で調べ、地図でコースを見て、時間をいれ、一日の行動が出来るかを調べる楽しみ。

「行動を起こす」とは計画を立てた山に登る楽しみ。

「記録を残す」とは、計画を立てた山に登り、登った山の時間いれ、写真を撮ったら記録にいれ、反省があればそれも書き入れる。

こうしたことで山登りには3回の楽しみが出来る。こうしたことで自分の自立が出来、次の楽しみが出来ると思います。

人の計画ばかりに付いていくのは、下ばかり見ていて景色も楽しめない山頂に着いてもここが山頂か思うぐらいで山名しか思い出せないという方が多いと思います。

2011年は自分で計画を立て自立した山行を行っていきましょう。



明けましておめでとうございます。

千葉県連盟 会長 広木国昭

新しい年を迎えました。

2010年は、鬼泪山を守る取り組み・拡大検討部会の立上げなどご協力をいただきました。

今年は千葉県連盟創立45周年の節目の年です。

皆さんと共に45周年を祝いたしたいと思います。同時に、千葉県連盟を守り発展にご尽力にいただいた、多くの先輩に感謝申し上げます。

そして、何よりうれしい事は、新年を756名の会員の皆様と迎えられた事です。昨年、11月末の会員数が、2003年以降の減少傾向を打破して756名になりました。これは各会が創意工夫して会員拡大に取り組んでいただいた成果です。今年度も個人会員制度の導入を視野に入れて、組織強化・会員拡大に取り組んでいきます。

45周年記念行事として、ネパール・トレッキングの準備が進んでいます。各会の経験者を中心に実行委員会を結成して、手作りのトレッキングとしたい。

今年もよろしく申し上げます。

1 2月理事会報告

■開催日時：12月16日（木）19：00～21：00

■開催場所：船橋西部公民館

■出席者：有馬靖二（船橋勤労者山の会）、桑原年一（ハイキング委員長理事兼任）、高見信明（東葛山の会）、三辻勝・（千葉こまくさハイキングクラブ）、小林光子（山の会らんたん）、戸石衛（千葉民医連・歩こう会）、塚口宇一郎（山の会「岳樺クラブ」）、吉武興治（かがりび山の会）、中村隆泰（岳人あびこ）、中原紀代治（ふわくハイキングサークル）、吉澤重克（市川山の会）、小林康男（まつど山翠会）、佐藤安行（シリウス山の会）、阿部英幸（まつど遠足クラブ1年さくら組）廣木国昭（会長）、岡田正勝（理事長）、鶴田秀雄（副理事長）、渡辺敦子（事務局長）、佐藤勝子（会計）、菅井修（自然保護委員長）、岡田賢一（教育遭難対策委員長）、高橋義則（救助隊長）。

【議題内容】

■ 2010年度（44期）千葉勤労者山岳連盟総会活動報告（案）趣旨の説明。

■ 2011年（45期）千葉県勤労者山岳連盟総会活動方針（案）趣旨の説明。

■ 全国連盟の個人会員制導入の基本構想（案）趣旨説明

■事務局

各会の活動内容をホームマットにして理事に送るので活動内容を書き入れて事務局に送っていただきたい。

■委員会報告

*教遭委員会

2月5日（土）、船橋市西部公民館 12：15～17：45

目的 一般登山中に想定される事故現場での応急処置（通常携帯装備を想定）

*自然保護委員会

2月20日（日）鬼泪山を守る市民の会との合同で鬼泪山の清掃を行い、その後話し合いをする。

船橋勤労者山の会から、千葉県内の沢登りをしているが、鬼泪山以外でも、林道つくりや土砂などを捨てて、きれいな沢を壊しているのので、これから里山・沢を守って行く行動を自分たちで考えていかなければならない。

■ 2011年度45期総会

3月6日・日曜日 場所 千葉県総合スポーツセンター宿泊所大ホールを予定
時間などは追ってお知らせいたします。

代議員は10名に一人（四捨五入）

次回の理事会は2011年1月20日、第3木曜日に行います。

（報告者 理事長岡田正勝）

「2011 救急法机上講習会」の案内

千葉県連盟・教育遭難対策委員会

山岳自然をフィールドとする登山活動は、その素晴らしい魅力の一方で必然的に人智の及ばない危険性をも内包しています。それらを仲間との共同作業で乗り越えて所期の目的を達成し、無事に下山して行為を終了する事に登山のダイナミクスは存在します。

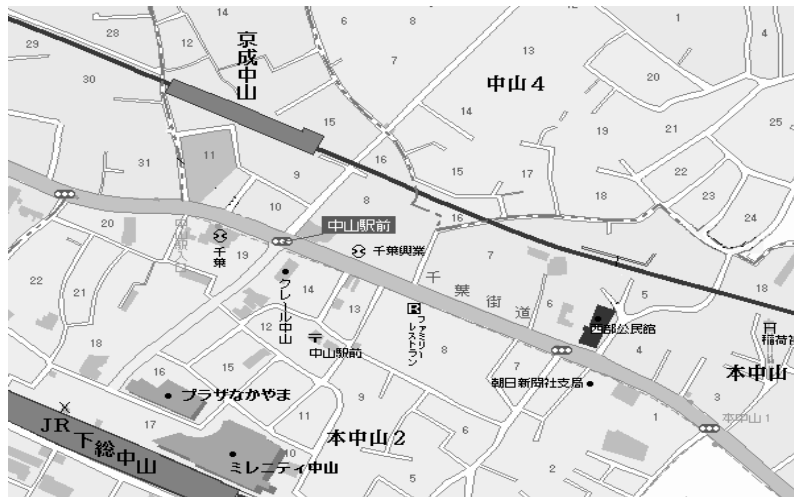
従い、その過程に於いて予想されるリスクに対する適切な対処・処置法の知識と技術は我々登山者の必須のアイテムと云えます。

一方 残念ながら本年も各地で、労山内外を問わず遭難事故が多発しています。

当委員会では本年度の各会アンケート結果を基に、下記内容での机上講習会を行い、事故防止の一助といたく、各会よりの積極的な参加を願います。

記

- ・主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会／救助隊
- ・日時 11年2月5日(土) 12:15 開始-17:45 終了
- ・場所 船橋市西部公民館 (JR 下総中山東口より歩5分)
- ・目的 一般登山中に想定される事故現場での応急措置 (通常携行装備を想定)
- ・内容 1) 低体温症への対処 全国連盟遭対部 横山氏 (県連救助隊副隊長)
2) 救急法 (捻挫・骨折等への措置) 全国連盟遭対部 藤樹氏
- ・規模 50名程度
- ・装備他 別途連絡
- ・申込先 各会理事より教育遭対部青山宛 (mail 又は fax で1月23日までに)
htrkt490@ybb.ne.jp 043-277-0422 へ
会名／当日責任者／参加者数を連絡下さい。
- ・参加費 500円 (当日会場にて各会毎に責任者が纏めてお支払い下さい)。
- ・会場案内



27 回ロング・14 回ウイークデー合同ハイキングを終えて

ハイキング委員長 桑原年一（記）

山行日 2010 年 12 月 02 日（木）～03 日（金）一泊二日

参加者 松戸山の会 12、東葛山の会 6、山の会らんとん 5、かがりび山の会 2、ふわくハイキングサークル 5、君津ケルン山の会 2、千葉こまくさハイキングクラブ 8、市川山の会 7、ちば山の会 3、 50 名

一日目、東葛地区 24 名はバス移動でしたので天気に恵まれて、予定通り梅ヶ瀬溪谷から大福山の紅葉ハイクを楽しみ七里川温泉でくつろぎ、夜は中原氏の「東大演習林の話」を拝聴して後は交流・歓談して楽しみました。

二日目は心配していた天気が、夜中より降り出し風雨になり房総を直撃してトンネルまで決壊、電車が止まる様な悪天になり、それが翌朝 9 時頃ようやくおさまる。

前夜より代替えコースを決めておきましたが再度変更して、メインコースを止めて 9 時 30 分決行で皆に了解をとり出発しました。

七里川温泉から車道を歩き筒森もみじ谷コースに入り、紅葉を觀賞して戻る予定でしたが天気が回復してきたので、そこから石尊山を經由して温泉の脇に下山しました。

12 時 30 分少し早目でしたが温泉で食事して、残念でしたが解散することにしました。



前日温泉に直接参加の会の内、山行してからの予定が前日の天気予報があまり良くなかった為、中止して直行の方々、二日目に備えて車での参加の方々は、満を持していたのにメインコースに行けなかったのは残念だったと思います。なんとか次回に催行したいと思っていますのでご期待して戴きたいと思っています。

短いコースでしたがそれなりに変化に富み、特に皆さん未経験のヒルまで出てくれたハプニングもあり良かったと思いました。

バス組は長崎十字路で下車、東大演習林もみじコースの黒滝までと思い入って行きましたが此処も大雨で中止、手前で引き返す事になり、止む無く帰路に着きました。

不純な天候にもかかわらず、お参加戴き有難うございました。次回は良い山行が出来る事を祈ります。

ロング紅葉ハイクが雨でパー

実行委員長 ふわくハイキングサークル 中原 紀代治

12月1日 天気が大荒れの予想で、雨のコースをどうする、演習林へお願いして雨天時コースの通行許可を頂き一安心した。

12月2日

七里川温泉で交流会、初めての参加者が10数名、少し緊張したが、雨天時のコース変更などを説明して、千葉演習林の山野草や樹木について話をした。

交流で美味しい酒を飲んで寝たが、朝方に雨の激しい音で眼が覚めた。

12月3日

朝6時風雨が激しい、“ダメダコリヤ”、8時まで待つとの連絡をした。7時半に東大演習林から、黄和田トンネルが崩壊の連絡がありトンネルが二ヶ所あるので、どちらのトンネルか、見に行った。清澄方面の黄和田畑トンネル入口の山が、崩れて半分塞いで未だ崩れが続いている状態だった。困った追原に行けない、雨が止むまで考えよう。9時に、黄和田畑トンネルの状況を見に行った。パトカーの2名が警戒で、通行禁止のことで決断した。



9時半時々晴れ間が見えてきたので、雨天のコース筒森のもみじ谷の往復が良いと判断した。それに決めて全員に伝えて、9時40分に出発した。

雨上がりの山の斜面から、雨降り滝が何箇所も見られた、筒森川は、濁流が普段と違う流れだ。風が吹いている割に、紅葉がきれいだ、もみじ谷は、少しピークを過ぎていたが、木によって真っ赤や黄色のコントラストが良い、折り返し点で、天気が良くなり、少し欲張って小倉野より石尊山を登って帰ることにした。

小倉野の最初の民家の菜園を通り、石尊歩道に取り付けるのだが、カヤがおい繁って、無理と判断した、少し歩くとそれと繋がる山道が見えた。ここから上がることにした。

上がりだして、最後尾に連絡したら、3名が来ないと言う連絡があり待つことにしたが中々来ない。引き返したらしい、やっと連絡も取れて出発した。稜線に到着して、事件が、10月の陽気で、ヤマビルが動いている、ヤマビルは10度以上になると活動出来ると言う。

電波塔の舗装道路でチェックしたら何人か血が出ていた、吸われた様だ。これも体験、後でヤマビル対策について、再度、話をした。(ヤマビルはナメクジと同じに塩に弱い。塩浸けのスパッツの効果など) 石尊山の山頂を踏んで下山は、表山道の迂回路にした、ぬかった道だが、ゆっくり下りる、12時20分無事七里川温泉へゴールした。

朝から八方塞がりでお悩んだが、千葉の紅葉の一部を見て頂き、皆様の協力が無事に終えたことに感謝します。

第15回全国登山者自然保護集会参加報告

千葉県連から 菅井 小林 古瀬 の3名が参加した。

11/27(土)

13:00～ 主催者挨拶 理事長 齋藤義孝

13:10～ 主管挨拶 都連会長 佐々木功

13:20～ 基調報告 自然保護委員長 浦添嘉徳

- ・ 労山の全国いっせいきリーンハイクと労山自然保護憲章
- ・ 各地方連盟の自然保護運動の取り組み
- ・ 山岳団体自然環境連絡会の取り組み について報告された

13:40～ 記念講演「生物多様性の保全と登山者の役割」小川潔 東京学芸大学準教授

1、東京の自然保護問題

【天祖山の自然保護問題】 過疎と開発の問題

【圏央道と高尾山の自然保護】 自然保護と利便性の問題

2、山岳地域お観光開発と自然保護問題

【利用者規制の諸相】 輸送交通の増便、山小屋の旅館化 オーバーユース、来た人に自然破壊の主犯というレッテルはる問題

3、生物多様性保全の意味

・ 長時間をかけた進化と環境の選択圧の結果であり、微妙な生態系を形作っている。

生物は互いに依存しどれ1つ不用な物はない。外来種との混雑は生物多様性の増進とは言わない。タンポポを例にとり詳しく説明

・ 登山者が出来ることは山の情報の発信・伝達者となること。

16:00～各地方連盟報告と討論

①岩手県連 早池峰山し尿処理と山のトイレ

②宮城県連 蔵王の登山道整備

③栃木県連 クリーンハイク 登山道整備と念仏平, 五色沼避難小屋

④滋賀県連 比良・八雲ヶ原の現状回復を求める運動

⑤兵庫県連 自然環境破壊の武庫川ダムを中止させた運動

⑥東京都連 足尾の山の植樹

⑦千葉県連 鬼泪山山砂採取問題の報告

18:00～夕食 交流会

11/28(日)

9:00～分科会

1、生物多様性の宝庫である山の自然、汚さずに自然を傷つけない登山とは
ヒトの多い山、あまり入らない山でトイレの形も代わってくる トイレ問題 植生を守るため登山道 行政との連絡必要

2、里山の自然を大事にし、山の多様な楽しみを求める登山 古瀬が参加
里山が荒れている。データ調査が必要 山林、竹林の手入れ問題

3、地球温暖化と気候変動、登山者はどうすればよいか
山ではどうなっているか

・ 下草が無くなる ・ 雨が多い ・ 気温の上昇 ・ 森林限界の上昇
登山者は ・ マイカー使用について ・ 観察データの収集

4、野生鳥獣と共生するための登山者の役割 小林が参加

動物の生態を知る事が必要 熊、鹿、猿、イノシシ、スズメバチ、雷鳥
山の会として調査協力

5、貴重な山の自然を破壊するヒトの経済活動や社会生活の問題点 菅井が参加

過疎対策と言う口実での開発 天祖山石灰岩採掘

「地域の人々の利便性のため」林道開発

地域の経済という名目での安易な開発 鬼泪山

地域の人達の思いを受け止めて運動する必要がある

11:10～12:00 全体集会 まとめ

終了後 希望者は高尾山現地観察 多摩川溪谷の自然観察を行った。

全国連盟が提案した個人会員制度について

千葉県連盟会長 広木 国昭

2月に招集される、第29期評議会の議案が送られています。その最大の焦点は「個人会員制導入の基本構想」である。

個人会員制の導入については、第29回総会で突然の様に提案された。その後、全国組織担当者会議でより具体的な内容と導入のプロセスが示された。

今回提案された基本構想案は、ほぼ最終案と言ってもよいものです。千葉県連盟は、2年前から組織委員会を中心に「組織強化」「会員拡大」を検討してきた。この取り組みから、「拡大検討部会」を立ち上げて、その一方策として「個人会員制の導入」の検討を進めてきた。

今回提案された、全国版「個人会員制導入の基本構想」に対して、拡大検討部会の取り組みを活かして検討を進めていただきたい。

以下に、「個人会員制導入の基本構想」の要点について述べます。

◆ 基本構想の特徴

- ① パートナーシップ（仲間づくり）をめざしている。
- ② 未組織登山者に学ぶ機会を提供し、労山の基本理念を普及する。
- ③ 当面の組織目標を、2年間で1万人とする。
- ④ 会費は、年間6,000円とし、救助捜索費と入通院見舞金が支給される。
- ⑤ 個人会員制の、愛称を「ろうさんパートナーズ」（仲間たち）とする。
- ⑥ 個人会員の基本的な権利と義務は、今後検討、討議を行う。
- ⑦ 山行管理は、安全対策と教育を実施、計画書の提出・入下山管理の実施。

などが特徴である。では、

- ① 会費6,000円の根拠は？
- ② 新特別基金ではないの？ 救助捜索費と入通院見舞金の支給とは？
- ③ 山行管理・安全対策は本当に大丈夫なの？
- ④ 2年間で1万人を設定したのか？

この、4項目が「個人会員制導入の基本構想」を理解するポイントです。

◆ 全国連盟の個人会員制度のプロセスについて

- ① 「個人会員制導入の基本構想」は、各会に討議をお願いしています。各会での討議結果を2月17日の県連理事会でまとめ、2月19日・20日の全国評議会で討議します。
- ② その結果により、導入時期が決定されるか、さらに2012年2月に予定されている全国総会まで期間を延長して討議を実施する。

◆ 千葉県連盟は、2010年の総会で個人会員制の実施を決定しています。

千葉県連盟の個人会員制は、2011年の早い時期に導入実施します。

問合せは：広木まで (danphiro@zpost.plala.or.jp)

出席者（障害者団体 6人 山の会 3人）

1. ハイキング実施状況

- ・参加人数 障害者 29人、山の会 89人
- ・バスの運行 出発は若干遅れたが、道中は渋滞なくスムーズだった。
- ・班分けなど 駐車場が狭かったが短時間に班分けできた。
- ・ケーブルカー 3回に分けて乗車。車いすの乗り降りも困難はなかった。
- ・コースの状況（路面、坂など） ビジターセンターの先が一部きつい坂道。路面悪くなかった。
- ・所要時間 行き、帰りとも予定より早めに歩くことができた。
- ・昼食 長尾平の一番先まで降りたのでテーブルは使用できなかったが、眺め良好。
- ・レクリエーション（歌、・・・）十分な時間が取れた。楽しんだ
- ・トラブル、アクシデントなど 特になし。
- ・目的地（御岳山）について 全員最後まで歩くことができ、良いコースだった。

2. 今後の改善点

- ・（障）毎年やってもらいたいという要望が多い。歌以外のゲームも希望あり。
- ・ミーティング時の声が聞き取りづらい。ハンドマイクなどが必要。
- ・（障）高地なので酸素が薄く、ボンベの消耗が早い。帰りのケーブルの順番を先にしてもらいたかった。事前に把握し、対応する。
- ・（障）バス車内の運営（説明やゲーム）の分担範囲が不明で話しにくかった。担当者の事前打ち合わせが必要。
- ・集合場所（NTT前）が混み合い、参加者がばらけてしまった感じ。要検討。

<別の日の、山の会の反省会で>

- ・同じ班の参加者のバスが分かれ、現地まで顔がわからなかった。休憩時にも対応できない。要検討。

- ・無線機なしでの行動だったので、今後は必要。
- ・今回医療班が置かれなかったが、事前にその旨を広報してもらいたかった。
- ・車いすを引く際に使用するスリングは幅広のものがよい。力が入りやすく、疲れも少ない。

3. 会計報告

会計報告書の通りに承認。今回はあらかじめ不足分は過去残金で対応することが決まっていたが、次回はシビアに予算立て必要。特に参加費は内輪の数字で計上。

(帳簿、領収書、その他の書類・資料は三橋が保管しています。いつでも閲覧して下さい)

4. その他 ・下見費用など立替金を精算。

- ・写真 (CD) を配布。人数分作成したが、もう少しCDがあるので、希望者は三橋へ連絡下さい。

5. その他 (次回の方向など)

- ・時期 2012年の実施予定だが、もし5月頃行うのであれば、2011年(来年)3月には打ち合わせをする必要がある。

- ・行き先 障害者団体側で先ず希望を出してほしい。希望地のなかから実施可能かどうかなどを検討し、決めたい。

- ・交通方法 バス良いのではないかな。

6. 各実行委員の感想や、意見

- ・(山) 歩き通したい、という意気込みがすごい。感動した。
- ・(山) 参加者に喜んでもらえることが大変うれしい。
- ・(障) 自分たちだけではとうてい実現できない。山の会のおかげです。
- ・(障) 知らなかった人との、つながりができて良かった。
- ・(山) 毎年実施の希望あるが、山の会としては難しい。障害者団体でハイキングクラブをつくったらどうか。お手伝いしたい。クラブができれば連盟に加入してほしい。

次回ふれあいハイキングのための事前打ち合わせ

2011年3月29日 19:00 場所: スポレクセンター (未予約)

(少人数で)

「登山は私のストレス解消」 剣岳に再度挑戦

松戸山の会 佐川美枝子



何年か前「夏合宿 剣岳」に登った時の感激を再度と思い、今年も参加しました。

今回は会に入会したばかりの50代半ばで15周年を迎える時でした。山の知識はまったくなく、いろいろと指導して戴き、山頂を踏むことが出来ました。

今回は小屋に着くと同時にメンバー全員に小屋の方から「今年は剣の映画が有った為初歩的登山者が多く、事故が多発しているので充分気を付ける様に」の説教があり、行けるかどうか心配しました。

朝起きると体調も良く、天気も良いので登ることにしました。なんとか皆と一緒に山頂を踏むことが出来ました。

頂上は360度の展望、前回下った早月尾根の小屋が下に見え、苦しかったことが思い出されました。今年も登れて感慨無量です。

登山は私のストレス解消です。これからも健康に気を付け、会に迷惑をかけるないように続けたいと思っています。

第9回教育遭難対策委員会報告

- 日時 11月29日 19:00～20:30
- 場所 県連事務所
- 出席者 岡田（船橋） 青山（ふわく） 高橋（東葛） 吉田（東葛）
三辻（こまくさ） 平井（かがりび） 横山（ちば山）

■ 議題

● 事故報告

11月 茂原 鵜原海岸岩場にて5m滑落、骨折。

● 「事故防止・経験交流集会」の総括

基調講演「トムラウシ遭難事故に学ぶ」に加えて、各会より事故経験を踏まえた報告を发表願ひ、お互いの情報交換を図る事が出来、又交流を深めた。コース別セルフレスキュー講習もデモに終わらず、実際に手を出して行うことで成果があったと判断される。

参加者は13山岳会計69名で、課題であった常磐線沿線の会の参加が得られたのは、県連行事として大きな成果であった。

尚、残金は昨年と同様に県連会計に繰り入れる。

● 机上講習の立案／検討

今年度実施した遭対委員会へのアンケート結果に基づき、救急法を中心とした机上講習に取り組む。当初は机上と実地実技をセットで想定したが、遭対委員会・救助隊の負担等を勘案した結果、机上講習のみを予定する。

日時／場所 2／5（土）船橋市西部公民館 12:15～17:45

目的 一般登山中に想定される事故現場での応急措置（通常携行装備を想定）

内容 <1>低体温症への対処

<2>救急法（捻挫・骨折等への措置）

講師 全国連盟遭対部へ依頼

規模 40名程度

装備他 別途

次回委員会予定（合同） 12／21（火）19:00～県連事務所

第10回（11月度）救助隊例会報告

（教育遭難対策委員会合同）

- 日 時：平成22年11月29日（月） 19：00～20：30
- 場 所：県連事務所
- 出席者：高橋隊長、横山副隊長、関口事務局長、吉田、田中、住田、広木、徳永、加倉井、神山、平井、角掛
- 議 題：
 - 1) 関東ブロック深雪訓練参加について
 - ・ 1月例会時まで決定
 - * この訓練に関しては、県連救助隊と関東ブロックとの方向性の違い・参加条件（個人 or 隊員として？）・参加のメリット等多くの意見が出され活発な議論となりました。
 - 2) 来年度方針について
 - ・ 提出期限が迫っているが、新入隊員も増えて更なる意見集約が必要なのでMLで多くの意見を出して欲しい。（臨時例会12月6日に行う）
 - ・ 22年度活動報告は関口事務局長に纏めをお願いする。

次回例会 12月21日（火）19：00～ 県連事務所にて



女性委員会報告

- 開催日：12月9日（木）18時30分
- 出席者：千葉こまくさハイキングクラブ・ふわくハイキングサークル・千葉民医連 山を歩こう会・山の会らんたん（2名）・かがりび山の会・茂原道標山の会・広木会長
- 議題：1. 総会関連
 - (1) 第44期活動報告について

(2) 第45期活動方針

2. 第5回 ワンコイン講習会について



第10回ちばニュース編集部会

- 開催日：12月13日（月）19：00～
- 出席者：理事長、副理事長、事務局長
- 議題：1. 12月号反省
2. 1月号確認
3. 次年度について
- 次回部会：1月6日



海外委員会報告

- 開催日：12月14日（火）県連事務所
- 出席者：かがりび山の会（1名）・山の会「岳樺クラブ」（1名）・こまくさハイキングクラブ（1名）・広木会長
- 議題：1. 総会にむけて
 - ・第44期活動の確認
 - ・第45期活動方針の確認
- 2. 45周年記念トレッキングについて

今月の登山時報から (2011年1月号)

【表紙の絵がかわる】

今月号の登山時報を手にとって真っ先に感じるのは「おっ、絵がかわったな」ということだ。水彩画風で素朴な感じの絵だ。早速ページをめくって「ひと」欄を見ると今号から本誌の表紙を飾る画家/上州の山々と季節をすべて描きたい！ という表題で筑井孝子さん(つくいたかこ)という画家が紹介されている。前橋市生まれで、いままでに群馬県の山や里の風景、そこに暮らす人々を描いた3冊の画集を出した。「登山時報」の表紙画を機会に、日本各地の山々を歩きたいと思っていると書かれている。

【共済救済の法律案がようやく成立、但し自主共済には規制部分も

齋藤理事長巻頭言】

国民新党の亀井前金融大臣の指示により自主共済を救済する目的の法律が11月12日に成立した。ただこの法律は重大な欠点があり、契約者保護のためには法的なバックボーンが必要との考えで法人格取得が前提となっている。それ以外にも支払準備金や保険数理人等、共済を保険とみなすような誤った規制が取り入れられる可能性がある。今後は、この法律を施行する具体的な細かいルールである「政省令」が作られる。「政省令」の中身を厳しく監視していかなければならない。

【いま、なぜ個人会員制なのか-4】今回は、愛知県勤労者山岳連盟理事長の洞井さんと大阪府連盟常任理事の佐々木さんの意見が紹介されている。

(洞井さんの意見)

愛知県連盟の個人会員制に対する態度は「否定はしない。選択肢の一つで、今考えられている危惧や問題点、疑問、そういったものがきちんと解決され、道筋や見通しがつけれなければ、おいそれと賛成できない」である。これまで「組織拡大」の明確な問題提起や、その活動の集約、総括が行われたことがないのに、組織後退の現状を克服し抜本的な解決を図るには「個人会員制しかない」という意見の根拠はどこにあるのか。愛知県連も少しずつ組織拡大に動き出しつつある。その経験からすれば、いま会員減少に歯止めをかけることができるのは、新しい制度の導入ではなく、既存の山岳会の真摯で創造的な取り組みである。組織としての登山、組織としての登山者教育、組織としての安全対策の優位性を外に知らしめて行くことが重要だ。

(佐々木さんの意見)

大阪府連の意見集約は出来ていないので役員の意向と佐々木さんの意見を述べる。登山人口の減少、労山会員の長期にわたる減少を考えると全国連盟が適切に対応できたといえる。従って、今必要なのは「労山再建プラン」だと思う。その検討結果として「個人会員制導入」が提案されるのであれば理解できる。登山の魅力を語り共有できる会であることが長期に亘って会を維持する基本だと考える。 記 鶴田秀雄

県連連絡先

千葉県勤労者山岳連盟
〒262-0033
千葉市花見川区
幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101
043-306-1190
(Tel/Fax)

H.P. :

<http://www.cwaf.jp>

ちばニュース投稿:

newstoukou@cwaf.jp

事故一報:

ken-ichi@f4.dion.ne.jp

(Fax) 043-271-4704

(教遭委員長・岡田賢一)

連盟費振込先

郵便振替口座

00160-3-481509

千葉県勤労者山岳連盟

新特別基金払い込み先

口座番号: ゆうちょ銀行

00130-7-595190

加入者名 佐藤勝子

〒272-0023

市川市南八幡 1-25-16

事務局便り

1
月
号

救急法机上講習会開催

2011年2月5日(土) 教育遭難対策委員会、救助隊合同の救急法講習会が開催されます。

・目的 一般登山中に想定される事故現場での応急措置
(通常携行装備を想定)

・内容 1) 低体温症への対処

全国連盟遭対部 横山氏 (県連救助隊副隊長)

2) 救急法 (捻挫・骨折等への措置)

全国連盟遭対部 藤樹氏

・申込先 各会理事より教育遭対部青山宛

(mail 又は fax で1月23日までに)

htrkt490@ybb.ne.jp 043-277-0422 へ

鬼泪山

富津市の鬼泪山国有林で民間業者が計画している山砂採取事業を事実上認めないとした土石採取対策審議会の報告に対して森田知事は県議会本会議で報告書の内容を尊重する考えを示しました。

総会

県連総会を3月6日(日)に開催します。場所など決定次第ちばニュース、HPなどでお知らせします。

編集後記

◆新年がスタートしました。今年はどのような山に仲間と登れるのだろうかと考えれば自然と顔がほころびます。どうしても克服しておきたい内容、再確認したいことなど山積みです。今年も仲間を大切に登っていきたいと思います。 ㊦



県連カレンダー



1月		2月	
1	土	1	火 第11回役員会19：00～県連事務所
2	日	2	水
3	月	3	木
4	火	4	金
5	水	5	土 救急法机上講習会 西部公民館12：15～
6	木 第10回役員会・第11回編集部会19：00～	6	日
7	金	7	月
8	土	8	火
9	日	9	水
10	月	10	木
11	火 第5回ハイキング委員会19：00～県連事務所	11	金
12	水	12	土
13	木 第7回自然保護委員会19：00～県連事務所	13	日
14	金	14	月 第12回編集部会19：00～県連事務所
15	土 第18回雪崩事故を防ぐための講習会	15	火
16	日 //	16	水
17	月 教遭、救助隊合同会議19：00～県連事務所	17	木
18	火	18	金
19	水	19	土
20	木 第7回理事会19：00～西部公民館	20	日
21	金	21	月
22	土	22	火
23	日	23	水
24	月	24	木
25	火	25	金
26	水	26	土 関東ブロック深雪訓練（救助隊）
27	木 //	27	日 //
28	金	28	月
29	土		
30	日		
31	月		

ちばニュース 【禁無断転載】

2011年1月号No. 213

発行：千葉県勤労者山岳連盟〒262-0033 千葉市花見川区幕張本郷1-29-18レジデンス幕張台101号室

発行人：岡田正勝

043-306-1190 (TEL & FAX)

編集人：渡辺敦子

ホームページ：<http://www.cwaf.jp>

事故一報：ken-ichi@f4.dion.ne.jp (教育遭難対策委員会/岡田賢一/FAX) 043-271-4704

日本勤労者山岳連盟：03-3260-6331 (TEL) /03-3235-4324(FAX)